社会福祉法人クリスト・ロア会
児童養護施設　聖ヨゼフホーム

理事長
宮田　浩明

東京都

昭和21年に戦災孤児を救済するために、カトリック・クリスト・ロア宣教修道女会のシスターが埼玉県下に設立し、70年を迎える。昭和24年に保谷市（現在の西東京市）へ移転し、これまでに1,000名以上の子どもたちを養護してきた。社会状況の変化とともに、虐待を受けた子どもなど、心に深い傷を持つ児童の入所が増える中で、国が目指す家庭的養護と個別化を積極的に推進し、社会的にも難しい中で先駆的に手厚いケアに取り組んでいる。創立70年を迎える現在に至っては、緑を大切にしながら施設の改築を進めて敷地内には７つの小規模グループケアを設け、市内の住宅地にはグループホームが３施設あり、地域住民との適切な関係を保持しつつ、家庭的な生活の場での養護を実現している。平成20年には、治療的養護機能を組み込んだ専門機能強化型児童養護施設の指定を受けて、専門職員等の配置など手厚い支援ができる体制等を整備し、精神科医師・心理士・ケースワーカーなどが協働して治療的・専門的ケアをすすめている。同時に自立訓練棟を設けて、金銭管理や生活の管理、健康管理を自分で行い、施設を出た際に自立生活が行えるようにしている。地域の子育て支援の拠点としては、子育て支援ショートステイ事業の運営や要保護児童対策地域協議会の研修講師などを担い、児童虐待防止策へ質の高いサービスを提供している。

このたび私共、社会福祉法人クリスト・ロア会児童養護施設聖ヨゼフホームが表彰を受けましたこと、また2016年に聖ヨゼフホームは70周年を迎え、貴財団の表彰を受け二重の喜びです。

私共法人本部はカナダ国にあり、1928年に創設者であるシスターフレデリカ・ジルーとフランシスコ・ザビエル・ロス司教で新しい修道会を立ち上げることとなり、修道会の名称を当時のローマ教皇ピオ11世に委ねました。1929年、教皇ピオ11世は聖職50年の記念の年で「クリスト・ロア」の命名を頂きました。

クリスト・ロアとは仏語で「王であるキリスト」と云う意味です。1933年（昭和８年）にシスター方が来日し、修道会として各カトリック教会や病院へ奉仕する仕事を行っていた中で「自分たちの手助けを必要としている人々には手を差し伸べる」という理念を大切にしていました。

1946年（昭和21年）、戦争孤児を引き取り、埼玉県南桜井（現春日部市）に聖ヨゼフホームを創立し、キリストの愛の精神を基に児童養護施設としてスタートしました。聖ヨゼフホームの名は創立者が聖母マリア、主キリストを命がけで守り抜いたヨゼフから、子どもたちを守る上で守護者として一番相応しいと思われたからと聞いています。

1949年（昭和24年）に埼玉から現在の西東京市に移転し、今日に至っています。法人として聖ヨゼフホームの他に、奄美大島に知的障がい児（者）施設も運営しており、病院関係では静岡御殿場にらい病患者収容施設（神山病院）を運営しています。たくさんのシスター方は修道会として社会福祉、教育、医療等の活動を通して、主イエス

の福音を宣教する事を目的に活動されてきました。

今回の貴財団の表彰はこれまでの長きにわたるシスター方への御褒美と確信しています。

創立者、数多くのシスター方の想いを未来永劫受け継ぎ、今日の社会、福祉情勢や地域への社会資源としてニーズに応えた施設運営を進めてまいります。

子ども一人ひとりの特性の伸展に努める一方で個性豊かで、優しく思いやりがあり、将来、健全な社会人として自立に向け支援を職員一同全力で取り組んでまいります。

理事長　宮田　浩明

▲退園した子どもが「成人を祝う会」に帰ってきた

▲「ある日の食卓」

▲「夏祭り」で登場したピエロとのツーショット

▲「子どもキラット楽演祭」でのコーラスショット

▲「江戸っ子杯野球大会」での円陣ショット

▲子供達の下校風景

田中　元介

神奈川県

神奈川県川崎市で、自らのうつ病克服までの経験を活かそうと、平成20年に「うつ病支援の会あさお」を設立し、「GEN さんのつどい」「個別相談」「学習会」などを通じてうつ病の方々に寄り添い、うつ病に対する理解者、支援者が増えるように尽力している。

（推薦者：公益財団法人　かわさき市民活動センター）

「第47回　社会貢献者表彰」を受賞させていただきましたことを、大変光栄に存じます。

受賞は思いもよらないことで、それほどのことをしてきた訳でもないのにいいのかなという思いと、お世話になってきた方々、活動を支援していただいている「かわさき市民活動センター」「麻生区社協」「麻生区役所」をはじめとした方々、会の仲間達への感謝の気持ちで一杯です。

憧れの帝国ホテルで晴れやかで盛大な表彰式典を催して祝っていただき、感激しています。

表彰していただきましたことはとても嬉しいことですが、表彰していただくとか、褒めてもらうとか、感謝してもらうことを目的に活動してきた訳ではありません。私はうつ病でまともに働けなかった時期が長くあり、多くの方々のお陰で完治しましたので、世の中の恩に報いなければという思いで当たり前のことをしてきたに過ぎません。

34歳からの10年間、人事業務の一環でうつ病をはじめとしたメンタル不調の社員の回復・復職のお手伝いの仕事をし、その後46歳から15年間、自分がうつ病を患ってしまい、大変辛い思い、休職・復職・再発の繰り返し、自殺寸前、早期退職、障害年金受給、回復・完治という経験をしました。

これらの経験を活かして、主として川崎市民のうつ病と自殺の低減に寄与することを目的とした活動をはじめて、ちょうど８年になりました。実のところ、この活動をはじめた当時と比べて、現在の方がはるかにストレスに強くなり、また心の平穏を得ていると感じていまして、「情けは人の為ならず」ということわざのとおりだと実感しています。

27年度は、GEN さんのつどい（うつ病に関心がある方々のおしゃべり会）実施回数24回　参加者数延べ224名、個別相談来談者数90名　相談回数延べ1,889回、学習会等の実施回数２回 参加者数延べ40名でした。

日々の出来事や出会いを新鮮に感じ、一瞬でも自他一体や無我の心境になることに生きる価値を感じ、地道に粘り強くあきらめずに活動してきました。

この活動が世間へのわずかながらの恩返しになっているとしたら、とても嬉しいです。

今後も、過信せずうぬぼれず初心を忘れることなく、今までどおり地道に粘り強くあきらめずにこの活動を続けていこうと思います。

ありがとうございました。

▲“GEN さん”のつどい（うつ病に関心のある方々が自由参加で集まって、自由におしゃべりする場所）

▲公開講座「うつ病について知ろう！」

▲公開講座「人間関係とストレス」＆「ミニコンサート」by 梨海（rimi）

▲第３回かながわ NPO 映像祭表彰式

▲市民のためのシンポジウム「これからのメンタルヘルスケア」

▲パンフレット表紙（Ａ４　４ページ）

特定非営利活動法人　チームふくしま

福島県

東日本大震災発生後、その年の５月から現在も継続して福島県で復興支援活動を行っている。全国と福島をひまわりで結ぶ「福島ひまわり里親プロジェクト」を行っており、2011年５月のスタートから今年で５年目を迎える。全国でひまわりの種を購入し、育て、花を咲かせ、採れた種を福島に送り返す。この全国のひまわりを福島県内に配布、花を咲かせ、福島で採れた種を搾油、最終的には福島市を走る福島交通のバスのエネルギーの一部として活用する。日本全国で累計20万人以上が参加、参加教育団体数は累計1,500校を越えた。2015年は、福島県内３万袋以上を配布。市有地の公園や、小中高、大学、教育委員会などの教育機関、観光地で、全国から届いた種が育てられている。

（推薦者：佐久間　辰一）

理事長
半田　真仁

この度は、このような名誉ある賞を賜りまして、誠にありがとうございます。

こうして表彰していただくことができたのもご推薦くださった牧野ひまわり会　佐久間辰一会長はじめ、福島県内の福祉作業所の皆さま、プロジェクトに関わってくださっている全ての皆さまのご支援のおかげです。心より御礼申し上げます。

「チームふくしま」は、福島県内の若手経営者が中心となって地元福島を盛り上げていこうと立ち上げました。主な活動である「福島ひまわり里親プロジェクト」は、ひまわりを全国各地でいわば「里親」として育て花を咲かせて採種し、その種を福島の地で「復興のシンボル」として咲かせることにより、日本全国と福島の絆を深めるプロジェクトです。きっかけは福島県二本松市にある福祉作業所で働く障がい者のための雇用対策からでした。

2011年の原発事故に伴う風評被害の影響は、福島の観光業や農漁業などに深刻な打撃を与える中で、特に障がい者の雇用や自立については、震災前からハードルが高く厳しい状況にありましたが、震災の影響により、障がい者が仕事としてできる軽作業などの受注が“０”になってしまいました。そこで、ひまわりの種のパック詰めを仕事として作業所に依頼しました。

全国で育てられたひまわりから採れた種は、福島に送り返してもらい、その種を福島県内に無料配布。福島県内で花を咲かせたひまわりは、種を採取、搾油。福島市内を循環する福島交通のバスの燃料の一部として活用されています。

ひまわりの種一粒一粒には、「福島と全国をつなぐ絆をつくりたい」「ひまわりをきっかけに福島に足を運んでもらいたい」「障がい者の雇用を守りたい」など、様々な想いが込められています。2016年までの５年間に福島県を除く46都道府県で、累計17万人（推定）が「里親」となって福島県の復興を願い、ひまわりを育てています。全国から届いた種は、県内の小、中学校、高校、大学はじめ観光地、行政、企業、諸

団体など４万６千個余り（2016）配布され、ひまわりが県内各地でも咲き誇りました。

【福島ひまわり里親プロジェクト　３つの目的】

1．雇用支援…福祉作業所へ軽作業を仕事として依頼しています。

2．教育対策…学校で授業の一環や奉仕活動として活用し、福島と全国の学校間の繋がり、生徒同士、学校と地域、親と子の絆を深める「道徳教育」に役立てられています。

3．観光復興…ひまわりを活用し、福島への観光や修学旅行のきっかけづくりをしています。プレゼンテーション大会「ひまわり甲子園全国大会」やひまわり畑で行う結婚式「ひまわりウエディング」を福島県内で開催しています。

表彰式では、あたたかい激励のお言葉をいただきました。これを励みに、これからも「福島が『同情の街』から『尊敬の街』に。」なることを目指して活動して参ります。

福島を想い、このプロジェクトにご支援くださる皆様を代表して今回の賞をいただけたと感じております。このような機会をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

理事長　半田　真仁

▲福祉作業所「NPO 法人和」の利用者とひまわり

▲ひまわり甲子園全国大会「茨城県鉾田市立旭南小学校」の発表の様子

▲ひまわり甲子園大会

▲ひまわりウエディング

▲福島支援のために震災からひまわりを育て福島へ贈り続けている里親。「のぞみ鍼灸整骨院」

▲歌『ひまわり』を作詞作曲し、福島へ届けた「福井県鯖江市立待小学校」の生徒たち

▲ひまわり甲子園関東大会　復興支援に取り組む４団体のプレゼンテーション

井本　勝幸

ミャンマー

日本国際ボランティアセンター（JVC）などで、ソマリア、タイ、カンボジア国境地域で難民支援に関わってきた経験を持ち、ミャンマー政府との同国内少数民族武装勢力らとのあいだで長引く停戦・和平交渉のなかで疲弊する避難民の惨状を目にし、2011年から同国の和平問題に携わってきた。歴史的・文化的事情の違う各武装勢力らが一丸となってミャンマー政府と交渉できるよう、各武装勢力リーダーを自ら訪ね、説得を試み、主要21武装勢力のうち11グループらで構成された統一民族連邦評議会の設立に協力、ミャンマー政府と同勢力らの交渉が円滑に進むよう大きく貢献してきた。また武装勢力らと仕事をともにする中で、武装勢力地域には今もなお第二次世界大戦中に亡くなった多くの日本兵のご遺骨があることを聞き、彼らの協力を得ながらご遺骨の収集、帰国活動を行っている。日本政府としても約40年前にミャンマーでのご遺骨収集作戦は実施していたが、地理的にも情勢的にもアクセスが限られていた武装勢力地域における作業は実施されていなかった。さらに、同じ仏教でもご遺骨は不浄のものという考えを持つミャンマー人にとって、ご遺骨収集・帰国活動に対する理解は得づらい。しかしながら、ミャンマー和平のために多大な協力をしてきた井本氏の活動であるならば協力をしたいという武装勢力およびその地域住民の協力もあり、同活動の実施が可能となっている。

ミャンマー少数民族和平と旧日本軍の遺骨収集

2012年８月末日、ミャンマーの新首都ネピドーからミャンマー少数民族武装勢力の一大拠点であるタイのチェンマイに戻った僕は、彼等武装勢力の代表達に囲まれていた。そこで彼等の口から提案されたのは旧日本軍の遺骨収集への協力というものだった。日本が敗戦した先の大戦後もミャンマーの辺境地域は民族の平等や高度な自治、連邦制を主張する少数民族各勢力とビルマ政府・軍との間で内戦が続き、それは今尚部分的に止んでいない。こうした彼等の地域は旧日本軍が連合国軍との間で激しい戦闘を繰り広げた地域に重なっており、60年以上にわたって続いている彼等の内戦のために旧日本軍の遺骨収集は手付かずのままとなっていた。ミャンマーでは10万人以上の旧日本軍兵士が戦没し、未帰還の遺骨はいまだに４万５千柱を数える。

僕は、一口で言うならばミャンマーとの深いご縁を頂いてきたお陰で主要なミャンマー少数民族武装勢力各派によって構成される連合体「ビルマ統一民族連邦評議会（UNFC）」の創設に関わってきた経緯があり、今もそのコンサルタントに納まっている。

2012年８月28日、僕はネピドーにある鉄道省の来賓室で少数民族問題担当のアウン・ミン大臣（当時）とさしで向き合った。当時、ミャンマー政府（テイン・セイン政権）は打ち続く少数民族各勢力との間に停戦と和解・和平に乗り出そうとしており、その白羽の矢にUNFCコンサルタントである僕が呼び出されたことで実現した対面だった。大臣から、少数民族との和平仲介に協力することを条件に少数民族実効支配地での人道支援や農業による自立復興支援についても特別に許可を出すとの申し出があり、言うまでも無く僕は即座に合意した。第三者を介した停戦・和平協議は他ならぬ少数民族各派が望んでいたことであり、ましてや第三者（国外勢力）が彼等の実効支配地で堂々と人道支援を行えるということは少なくともそれまでの彼等の歴史には無かったことだ。旧日本兵の遺骨収集への協力は、そのことに対する彼等からの恩返しとして始まったのである。

2014年５月、僕は雨季が始まりつつあった北部チン州の地をインド国境へ向けてひた走り、標高２千メートルを越える山々が果てしも無く連なる山の中で初めて日本兵の遺骨に対面した。

2016年３月、遺骨収集法案が国会を通過。ミャンマーでの遺骨収集はこれからが本番だ。

▲村人から話を聞く様子

▲農業実習

▲立派に成長した農作物

▲ご遺骨収集に協力してくれる村人と

▲収集されたご遺骨

▲農業学校での集合写真

▲農業学校の皆さんと

▲農業学校の仲間たち

▲和平仲介に尽力された井本さん

▲農業学校にて

▲こんなに採れました

▲ご遺骨の収集に関してミーティング

▲ご遺骨収集のスタッフと

田中　幸子

宮城県

2005年に長男の自死を経験し、生きて行くことがつらいほど孤立感が酷く、同じ思いの遺族に会って話しがしたいと思い、当時日本で初めての、自死遺族による自死遺族のための自助グループ「藍の会」を発足した。マスコミに多く取り上げられ、自死遺族は堰を切ったように全国津々浦々から同会に参加し、2008年には「全国自死遺族連絡会」が発足し、相互扶助の精神で全国の遺族がそれぞれの地域で活動をしている。自死遺族という経験から見えた、人が生きて行くために必要な支援を構築するのために、自死の予防や防止の活動にもカを注ぐ。東日本大震災後は子どもを亡くした親の会「つむぎの会」の活動を被災地にも広げ、津波で子どもを亡くした親も多く参加している。遺族自身が元気に生きていけるように24時間365日休みなく相談を受け付け、年間の相談件数は自死遺族以外からの相談も含めて（手紙・メール・個人面談・集い・電話）延べ１万件ほどになる。

（推薦者：広瀬川倶楽部　坂上満）

自死・自死遺族支援という活動が社会貢献という事で表彰して頂いたことは、私自身も含めて自死遺族の大きな励みとなりました。自死への偏見と差別から遺族は世間から隠れるように生きてきた歴史がありますが、今回の受賞は晴れやかな舞台で自死を語れることが認められたことでもあり、自死遺族が隠れずに普通に生きていける心の糧となりましたこと深く感謝いたしています。

私は2005年に長男を自死で亡くしてから半年後の2006年に、当時全国で初めて、社会に公開しての自死遺族の「わかちあい」の自助グループをたちあげ、2007年子供を亡くした親の会「つむぎの会」、自死の予防の「藍色のこころサロン」、また2008年に自死遺族による自死遺族のための全国ネット「全国自死遺族連絡会」を立ち上げ自死遺族の総合支援と社会活動をし、2010年は自死遺族等への差別問題の支援を目的として法律の専門家や民法学者と共に「自死遺族等権利保護研究会」を立ち上げ、遺族が元気で生きて行くための「総合支援」の活動を全国に広げてきました。2018年現在自死遺族の会員3,000人以上、その会員が全国で様々な遺族の自助グループの活動を展開しています。2006年の活動開始から、24時間365日休みなく相談受付、手紙・メール・電話・FAX・面談・１年間の相談件数１万件以上を10年以上続け、これまでに受けた相談件数が11万件以上です。

これからも愛する大切な人の失われた命の意味を伝え、自死の予防や防止、また遺された人たちが悲しみを抱えたままでも元気で、そしてやさしい人がやさしいままで、笑顔で生きて行くことができる社会を目指して、このいのちが尽きるまで活動を続けて行きたいと思っています。

▲藍の会「わかちあい」の会場

▲「わかちあい」の会場の中

▲「わかちあい」の受付

▲自死遺族のフォーラム

▲大阪での講演活動

▲茶話会の写真

▲法話の会

▲自死遺族の全国フォーラムの後の懇親会

13　長野県版　2011年（平成23年）9月24日（土曜日）　中国新聞

夫の死に迫る

田中　幸子　全国自死遺族連絡会代表

遺族の声を政策に生かす

写真・内山田正夫

▲東京新聞の記事（震災後）

故 荒岡　憲正／故 荒岡　正宏／荒岡　倫子

故 荒岡　憲正

故 荒岡　正宏

荒岡　倫子

静岡県

静岡県浜松市で、故荒岡憲正氏が重症心身障がい児施設の創設にかかわったことから、1976年に障がい幼児の早期療育の場として小児科や整形外科などの診療所を併設した「浜松こども園」を私財を投じて開設。障がい児を抱える親たちの望むものをアンケートを取って調査し、感覚統合療法やムーブメント療育（運動をとり入れて体と心を育てる）を行うためのグラウンド、音楽を楽しむためのホールやおもちゃ図書館を備えた児童のデイサービス事業を開設した。成長した障がい者には、小規模授産所や生活寮をはじめとして、社会福祉法人遠江学園設立にもこぎつけた。１万６千人を越えるボランティアの有形無形の助力とともに40年の長きにわたって、障がい児を持つ親たちの希望を叶え、社会自立を目指した施設を充実させ、障がい児福祉に尽力している。憲正氏の遺志は息子の故・荒岡正宏氏に受け継がれたのち、憲正氏の妻倫子氏に引き継がれている。

（推薦者：馬塚　丈司）

「障がい児の早期発見・療育を志して40年」

この度は、思いがけなく三人揃って栄誉ある社会貢献表彰のご案内を頂き、身の引き締まる思いで、受賞の席に着かせて頂きました。すでに故人となった創設者荒岡憲正、正宏と、事業を託された私。三人の40年をしっかり見守っていて下さる方がいらしたことにも、特別の感慨がございました。

今から40年前、障がい児に対して、充分な施策がなされていない時代、ことばの無い子、すぐに行方不明になってしまう子、家庭でのお世話が困難な子、親が働くためには、部屋にカギをかけて出掛けることもあったといいます。母子心中事件が新聞の紙面を賑わすことも度々ありました。

荒岡憲正は、早期発見・療育の強い志を持ち、保健所や役所等を巡り、大勢の協力者に出会い、昭和51年、海辺の茅の草原にプレハブの園舎を建てスタートしました。

個人の力は小さく、療育の理念を守りながら、精いっぱいの日々を過ごしましたが、こども達には一番いいものをと願い、全天候型のグラウンドや、プールの設置、安心して受診のできる診療所も併設しました。成長したこども達には、福祉作業所や、余暇支援を行い、グループホームの建設にもこぎつけました。

長い間、未認可法人の苦しい運営でしたが、念願の公益法人への移行を果たし、更にそれまで独自に行ってきた諸事業を、行政の制度にのせたのは、荒岡正宏でした。

ひとりひとりの可能性を見出し、沢山の名人（手機織り、草取り、藍染めの型彫り、

ピアノ）を育て、又、どの子も参加できる作業を創出した創設者荒岡憲正のその思いを継承したい、誰もが持っている何かしらいいものを見つけて、その子の喜びにつなげたいと、切に思います。

40年間で療育相談を受けられた方1,439人。尊い汗を流して下さったボランティアさん16,000人。志を共にして下さった、数々の職員たち。途方もなく大勢の方の支えがあって、私達三人が表彰を頂いていることに思いが至りました。安倍昭恵会長をはじめ、皆様の熱いお励ましをしっかり受け止めさせて頂きました。ありがとうございました。

▲障がい児のきょうだいたちの文集です。平成22年

▲早期発見、早期療育をめざし海辺の草原に大勢の親子が夢を託しました。昭和51年

▲ムーブメントを土台とする言語、機能訓練の学匠マリアンヌ・フロスティッグ博士から学び、こども園の療育の柱としました。昭和58年

▲体も心も育つムーブメント療育。平成26年

▲「米津浜太鼓」で地域交流に参加。平成26年

▲こどもたちはどんどん成長し小規模作業所でものづくり一筋に頑張っています。平成９年

▲創立40周年の記念式典

公益財団法人　どうぶつ基金

兵庫県

昭和63年横浜で設立され、殺処分される犬猫の状況を改善しようと、見捨てられた犬や猫の保護と里親探しを行い、猫の不妊手術（さくらねこ TNR）を全国各地で行っている。28年目の平成26年度には8,262匹の猫の不妊手術を行った。また、世界自然遺産登録を目指す鹿児島県徳之島では絶滅危惧にあるアマミノクロウサギを猫が捕食している事が発覚、どうぶつ基金では徳之島に住む推定3,000頭の猫すべてに不妊手術を施してウサギも猫も殺さずに生物多様性を守る共生プラン「徳之島ごとさくらねこ TNR プロジェクト」を立ち上げ獣医師団を派遣、すでに2,136頭の不妊手術を終えた。

（推薦者：Atsushi Ohata）

理事長
佐上　邦久

このたびは、どうぶつ基金を表彰いただき誠にありがとうございます。これもひとえに私たちの殺処分ゼロに向けた活動をご理解いただいていることだと身にあまる光栄に存じます。

どうぶつ基金は故富岡操さんが1988年に横浜で設立した財団です。富岡さんは海軍少将であった故富岡定俊男爵の奥様でした。式典当日は、海と関連の深い貴財団から表彰を受けたことを御夫妻が天国からご覧になって、どんなにか喜んでいらっしゃるかと思うと、私も喜びで心がいっぱいになりました。

富岡操さんは戦後間もない1948年ごろから横浜の自宅で、飼い主に見捨てられた犬や猫の駆け込み寺をはじめ1,000頭以上の保護を続けていました。1988年、83歳の時に自身の財産を提供し、当財団の前身、財団法人横浜動物福祉協会を設立しました。その後、シェルター施設に住み込みで働き、96歳で亡くなるまでの半生を犬や猫の救命と保護に献身されました。

1988年、財団設立当時の日本では、70万頭の犬と30万頭の猫、合計約100万頭の犬や猫が殺処分されていました。財団では、そんな状況を改善して人と犬や猫が殺処分なく幸せに共生できる世の中に変えるために、こつこつと見捨てられた犬や猫の保護と里親探しを行う一方、35,000頭のねこの無料不妊手術（さくらねこ TNR）を全国各地で行ってきました。

「さくらねこ」とは不妊手術済の印に耳先を桜の花のようにＶカットした猫です。どうぶつ基金が桜の花のようにみんなから愛されるようにという願いを込めて名付けました。これが全国で広く使用されるようになりました。知らない町に行ったときにさくらねこを目にすることも多くなりました。そんな時に「この町にもさくらねこを守ってくれる優しい人たちがいる。いい町だなあ」と思いとても幸せな気持ちになります。

財団設立から約30年、平成27年度の殺処分数は、100万頭から８万頭にまで減少しました。どうぶつ基金では発足当初から「行政による犬や猫の殺処分ゼロ」の実現をめざしてきました。当時は夢物語と笑われてきましたが、今では政府も「2020年オリンピックまでに殺処分ゼロ実現」を視野にプランを挙げています。

また世界自然遺産登録を目指す鹿児島県徳之島では絶滅危機にあるアマミノクロウサギを猫が捕食している事が発覚、どうぶつ基金では徳之島に住む推定3,000頭の猫すべてに不妊手術を施してウサギも猫も殺さずに生物多様性をまもる共生プラン「徳之島ごとさくらねこ TNR プロジェクト」を立ち上げ獣医師団を派遣、すでに2,136頭の不妊手術を終えたさくらねこがうまれました。この結果、猫の捕食によるアマミノクロウサギの死体発見はゼロになり生息域は５キロ平米も広がりました。

この様に私たちの活動の有効性が明らかになり、長年訴えてきた殺処分ゼロの実現が見えてきました。こういった実効性のある社会貢献が出来ることに大きなやりがいやよろこびを感じます。

どうぶつ基金ではこれからも創設者　富岡操さんの遺志を継いで犬や猫の殺処分ゼロの実現に向けまい進いたします。

理事長　佐上　邦久

▲兵庫県西宮浜の　さくらねこ

▲エコメッセ千葉での写真展風景

▲環境大臣室でロビー活動

▲香川県男木島　手術を終えたさくらねこをリリース

▲香川県男木島　手術を終えて幸せさくらねこ

▲鹿児島県徳之島　ご夫婦ともに獣医師の平野さん夫妻の手術風景

▲診療車　移動手術車　これで全国を回ってます

▲静岡県熱海市職員さんとの協働で手術が行われた

▲大阪　お初天神の境内で商店会の皆さんと一斉手術

▲大阪での写真展会場

▲徳之島　不妊手術を待つ犬

▲福岡県竹島　手術を終えたさくらねこをリリース

年度別表彰分野・受賞者数の実績

年／回 分野	1回 昭46	2回 47	3回 48	4回 49	5回 50	6回 51	7回 52	8回 53	9回 54	10回 55	小計
人命救助等	93	203	156	157	213	197	235	255	230	183	1922
国際社会への貢献											0
青少年育成・スポーツの振興	14	21	33	101	111	95	97	81	75	76	704
社会福祉への貢献	62	58	82	149	140	200	149	114	102	119	1175
文化の振興				3	7	11	5	9	11	11	57
地域社会への貢献	14	18	12	14	26	19	20	15	12	14	164
運輸交通への貢献	23	15	16	24		43	66	57	55	52	351
その他	34	35	87	97	114	95	105	135	139	105	946
小計	240	350	386	545	611	660	677	666	624	560	5319
開催日	3/23	11/10	10/26	9/26	12/10	11/5	11/8	11/7	11/7	11/21	
式典会場	①ホテルニューオータニ				②笹川記念会館						

年／回 分野	11回 昭56	12回 57	13回 58	14回 59	15回 60	16回 61	17回 62	18回 63	19回 平元	20回 2	小計
人命救助等	195	208	177	198	274	193	106	127	89	98	1665
国際社会への貢献										19	19
青少年育成・スポーツの振興	81	93	89	78	92	117	22	24	26	26	648
社会福祉への貢献	95	112	124	109	104	103	38	38	46	57	826
文化の振興	16	13	17	20	19	12	9	7	13	8	134
地域社会への貢献	15	12	12	15	8	13		3	7	11	96
運輸交通への貢献	42	40	38	45	35	31	55	54	69	76	485
その他	96	95	104	94	86	56	57	48	39	10	685
小計	540	573	561	559	618	525	287	301	289	305	4558
開催日	11/5	11/30	11/16	11/6	11/20	11/21	11/10	11/8	11/8	10/9	
式典会場	②笹川記念会館										

年／回 分野	21回 平3	22回 4	23回 5	24回 6	25回 7	26回 8	27回 9	28回 10		小計	受賞者合計
人命救助等	101	82	34	15	47	21	27	16		343	3930
国際社会への貢献	13	17	14	4	8	5	5	6		72	91
青少年育成・スポーツの振興	40	54	44	29	22	25	28	32		274	1626
社会福祉への貢献	64	75	68	28	36	37	34	42		384	2385
文化の振興	11	15	10	3	8	10	10	12		79	270
地域社会への貢献	12	9	4	7	14	20	19	19		104	364
運輸交通への貢献	83	80	49	18	14	18	16	20		298	1134
その他	13	7	7	0	0	0	0	0		27	1658
小計	337	339	230	104	149	136	139	147		1581	11458
開催日	11/7	11/5	11/1	11/7	11/1	11/12	11/13	11/9			
式典会場	②笹川記念会館		③ホテル海洋			④東京全日空ホテル					

年／回 分野	29回 平11	30回 12	31回 13	32回 14	33回 15	34回 16	35回 17	36回 18		小計	受賞者合計
第一部門 緊急時の功績	6	5	6	8	5	4	5	2		41	
第二部門 多年にわたる功労	14	15	11	12	13	11	11	18		105	
第三部門 特定分野の功績		4	7	8	8	11	9	9		56	
（海の貢献賞）			2	1	3	3	4	2		15	
（国際協力）		2	2	1	0	2	0	0		7	
（ハッピーファミリー）		0	0	2	1	3	1	2		9	
（21世紀若者）		2	3	4	4	3	4	5		25	
こども読書推進賞					3	3	3	3		12	
小　計	20	24	24	28	29	29	28	32		214	11672
開催日	11/10	11/22	10/29	11/19	11/ 4	11/15	11/16	11/20			
式典会場	④	①	④東京全日空ホテル								

※平成11年度より一般からの個人推薦を受付。
平成11年度より表彰分野別功績内容を、部門別功績内容とする。
平成12年度より第三部門を新設、テーマを持った特定の功績に対応する。
平成15年度よりこども読書推進賞を新設。

年／回 分野	37回 平19	38回 20	39回 21	40回 22	41回 23	42回 24	43回 25	44回 26	45回 27	小計	受賞者合計
人命救助の功績	9	13	11	11	8		3	9	0	64	
社会貢献の功績	33	35	34	34	39		36	35	47	293	
特定分野の功績 （海の貢献賞）	1	2	3	5	2		2	0	0	15	
海への貢献の功績								3	2	5	
こども読書推進賞 表彰式：6／26 会場：虎ノ門パストラル	1									1	
東日本大震災における貢献者表彰 表彰式：5／1 帝国ホテル						128	12			140	
小　計	44	50	48	50	49	128	53	47	49	518	12190
開催日	11/13	11/17	11/24	11/16	11/21	5／1	11/25	12／1	11/30		
式典会場	④ ANA インターコンチネンタルホテル				⑤帝国ホテル						
											12190

平成19年度より分野名を変更。こども読書推進賞は最終回。
平成24年度は東日本大震災における貢献者を表彰。
平成26年度より特定分野の功績（海の貢献賞）は海への貢献の功績に変更。

年／回 分野	46回 平28	47回 28	48回 29	49回 29	50回 30	51回 30	52回 31	53回 31	54回 32	小計	受賞者合計
人命救助の功績	9									9	9
社会貢献の功績	11	51								62	62
小　計											71
開催日	7／1	11/28									
式典会場	⑤帝国ホテル										
											12261

平成28年度より年に２回式典を開催。

都道府県別受賞者内訳

県　名	第46回までの累計	第47回受賞者	受賞者数
北海道	646	2	648
青森県	180		180
岩手県	214		214
宮城県	380	4	384
秋田県	123		123
山形県	154		154
福島県	175	1	176
茨城県	197	1	198
栃木県	146		146
群馬県	242	1	243
埼玉県	465	3	468
千葉県	396	1	397
東京都	1,145	8	1153
神奈川県	614	2	616
新潟県	260		260
富山県	144		144
石川県	143		143
福井県	204	1	205
山梨県	133	1	134
長野県	198	1	199
岐阜県	213	2	215
静岡県	309	1	310
愛知県	305	1	306
三重県	163	1	164
滋賀県	98		98

県　名	第46回までの累計	第47回受賞者	受賞者数
京都府	204	2	206
大阪府	479	2	481
兵庫県	509	5	514
奈良県	111		111
和歌山県	142	1	143
鳥取県	90	1	91
島根県	111		111
岡山県	305	1	306
広島県	409	1	410
山口県	272		272
徳島県	176		176
香川県	195		195
愛媛県	150		150
高知県	72		72
福岡県	540	3	543
佐賀県	125		125
長崎県	268		268
熊本県	226		226
大分県	125	1	126
宮崎県	71		71
鹿児島県	139	1	140
沖縄県	158	1	159
その他	86	1	87
合　計	12,210	51	12,261

※受賞者数は、当財団設立の昭和46年からの都道府県別受賞者件数の累計
※県名は、受賞者居住地の都道府県名　その他は居住地が海外
※受賞者数は、こども読書推進賞受賞者、東日本大震災における貢献者表彰受賞者も含めての累計

役員・評議員一覧

平成28年12月１日現在

会　　長	安倍昭恵	
副会長	内館牧子	脚本家
理　　事	犬丸徹郎	株式会社 和光　取締役執行役員
理　　事	永嶋久子	株式会社 資生堂　元取締役
理　　事	三谷　充	三谷産業株式会社　代表取締役会長
理　　事	屋山太郎	政治評論家
理　　事	天城　一	公益財団法人 社会貢献支援財団
監　　事	篠原由宏	篠原法律会計事務所、弁護士
監　　事	渡邉一利	公益財団法人　笹川スポーツ財団　専務理事
評議員	石井宏治	株式会社石井鐵工所　取締役社長
評議員	尾島俊雄	銀座尾島研究室　主宰
評議員	久米信行	久米繊維工業株式会社　取締役会長
評議員	今　義男	公益財団法人　笹川平和財団　顧問
評議員	重村智計	早稲田大学　国際教養学部　教授
評議員	中島健一郎	株式会社 ACORN　代表取締役
評議員	広渡英治	公益財団法人　日本吟剣詩舞振興会 専務理事兼事務局長

公益財団法人　社会貢献支援財団

設　　立：1971年5月1日
所 在 地：東京都港区西新橋1-18-6　クロスオフィス内幸町801
郵便番号：〒105-0003
Ｔ Ｅ Ｌ：03-3502-0910
Ｆ Ａ Ｘ：03-3502-7190
Ｕ Ｒ Ｌ：http://www.fesco.or.jp

社会貢献者の記録

2017年3月15日

発行者：公益財団法人　社会貢献支援財団

印刷：ヨシダ印刷株式会社

Supported by THE NIPPON FOUNDATION